



あしたの夢をともに実現

2019年度（2019年1月～12月）活動報告

NPO 法人 Ashita は 2019 年 12 月末に 7 回目の決算期を迎えました。私たちを取り巻く環境も大きく変わり、9 年前の東日本大震災の記憶も随分と薄れて来ています。しかしながら、皆さまに支えられて、Ashita も今日まで被災地の高校生たちへの海外交流活動を続けることができました。心より御礼申し上げます。

スカイプ・セッション参加者の高校 3 年生と一緒に、外務省・国際機関人事センターを訪問しました。国連等の国際機関の活動に関心を高く持ち、将来、日本だけではなく、世界を見据えて、様々な分野で国際協力を推し進めて行きたいという生徒たちの強い想いを感じました。

これはより大きな世界に目を向ける機会を得て、積極的に関わっていききたいという姿勢の表れだと思ひ、この素晴らしい機会を 1 人でも多くの生徒たちと分かちあえるように、これからも微力ながら関わっていききたいと考えております。

2020 年 6 月 Ashita 理事一同



2019 年 6 月 仙台育英学園高校訪問



2019 年 11 月 福島県立磐城高校訪問

■スカイプによる国際交流

震災直後に開始したスカイプ（インターネット上のビデオ電話）による交流を週 1 回、始業時間前に継続して行っています。2019 年 10 月の米国の新学期から 2020 年 3 月まで、磐城高校 8 名、福島工業高等専門学校 7 名、気仙沼高校 7 名、仙台育英学園高校 10 名計 32 名の学生が参加しました。アメリカ側は、イエール大学をはじめ、デューク大学、コロンビア大学の 15 名、ホーレスマンスクール高校から 2 名、計 17 名がボランティアとして参加し、お互いの絆を深め、英会話を通してお互いの夢や異文化や考え方の違いを実感しています。2020 年はコロナ禍のなか、日本・米国共に休校となり急きょ 3 月に中止となりました。

■2019年夏期 東北訪問プログラム

2018年10月より2019年5月までスカイプ・セッションに参加したボランティア学生2名が6月11日から14日まで東北地方の3校を訪問しました。

参加したのは、米国イエール大学1年生の Tony Wang とイエール大学で社会学専攻博士課程1年生の Dorothy Wu です。毎週1回スカイプで話し合っているパートナーの日本人学生に会いたいという思いと、日本の高校生に、自分達の経験から、もっと海外で学び、多くの異なる考え方の人達と出会い、話し合い、世界を広げてもらいたいとの思いから、この訪問が実現しました。2人は、高校まで中国本土の学校に在籍し、大学から米国で学んでいます。



2019年6月宮城県気仙沼高校訪問

■2019年秋期 東北訪問プログラム

6月の訪問で、プレゼンテーション、日本の学生に対する提言、意見交換の場を持ち、被災地の高校生は大きな刺激を受けたとの事で、再度の訪問を希望しました。11月25日から28日までコロンビア大学の Melissa Sakar とイエール大学の Mina Hughes が6月の訪問を継続する形で、10月からの新たなスカイプ・セッション参加者や他の学年との交流を実施しました。



2019年11月仙台育英学園高校訪問



2019年11月気仙沼高校生宅ホームステイ

海外で勉強することで、多くの異なる人達と出会い、グローバルな経験を積むだけではなく、英語を自由に使って自分の未来へのビジョンを思い描く事ができるのではないかと提言がありました。日本の10代、20代の若者は32.3%しか海外留学（短期を含む）を希望せず、1年以上の海外生活の希望者は20%以下という最近の統計結果について話し合い、もっと前向きに考えてもらい、日本人学生が増える事を期待しているとの事でした。

外国の大学生と結び付ける本プログラムが、日本の高校生にとって新たな世界への入口となり、架け橋となる英語を使って自由にコミュニケーションをとる能力や日本以外の国のリソースにアクセスできるといった、素晴らしい機会をこれからも提供したいと期待しております。